

令和2年度学校自己評価システムシート (県立小鹿野高等学校)

N08

目指す学校像	総合学科高校として、生徒の「学力・人間力・思いやり・創造性」をはぐくむ、地域に愛され、期待に応える学校
--------	---

重点目標	1 基礎から発展まで確かな学力の育成 2 総合学科の特色を生かしたキャリア教育の充実と進路実現 3 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 4 生徒の人間力を高めるための地域連携と開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			実 施 日	令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	【現状】 授業規律は維持できているが、授業以外の学習時間が短い生徒がいる。生徒間の学力差に対応する授業展開が求められている。 【課題】 ・授業以外の学習時間の増加 ・学力向上につながる授業改善の促進	学習習慣を定着させ、一人一人の学力を伸ばす	①学習意欲の向上に向け各種検定や小テスト等を活用(教科) ②生徒の主体性を引き出す授業改善研修会の実施 ③スタディアプリ、小論文指導、マンデーレス等による補充指導(進指部・教科等) ④少人数指導や習熟度指導等(教科)	①英検漢検等の受検者増 ②講師を招聘した研修会を1回以上実施 ③スタディアプリ受講者の利用回数増、生徒満足度増 ④「授業が分かりやすい」の生徒回答増(昨年度85%)			【課題】 . 【改善策】 .	学校関係者からの意見・要望・評価等	
2	【現状】 生徒の進路希望は多様であり、個に応じた指導が求められている。 【課題】 ・自らのキャリアについて興味関心を持ち、適性を知り、その能力を伸長する。 ・進路指導における保護者との連携強化	総合学科を生かした教育課程により自己実現への意欲を高める	①産社委員会を中心とした「産業社会と人間」の効果的な実施 ②保護者も参画する進路ガイダンスの実施(進指部等) ③進路を見据え、系列を意識した約80の選択科目の選択指導(教務部・学年等) ④学年や進路指導部を中心とした保護者への進路情報の提供や面談の実施	①「進路を考える上で役に立っている」の生徒回答増(昨年度90%) ②「進路指導に満足」の保護者回答8割 ③「選択科目に満足している」の生徒回答7割 ④「必要な情報提供が行われている」の保護者回答8割			【課題】 . 【改善策】 .		
3	【現状】 小規模校のメリットを生かし、教職員は生徒の特性や状況に応じて指導をしている。遅刻者数は昨年度大幅に改善。 【課題】 ・課題のある生徒に更に寄り添う教育相談体制の構築 ・山村留学の生活指導の充実	主体的に規律を守る態度・意識を育成する	①教育相談委員会を中心に、SC・相談支援員・巡回支援員との連携による教育相談体制を強化 ②学年及び生徒指導部等による組織的な整容指導 ③自己管理能力の育成につながる手帳の活用(学年等)	①「悩み等を相談しやすいか」の生徒回答8割 ②組織的な整容指導の実施回数 ③手帳の活用率増(昨年度45%)			【課題】 . 【改善策】 .		
4	【現状】 昨年度コミュニティ・スクールとなり、地域との協働による教育活動を促進できる体制が整えられた。 【課題】 ・山村留学9年目であるが認知度が低い。 ・学校と地域がWIN-WINとなるよう相互の課題や目標等を十分に共有する。	地域連携を通して生徒の自己有用感等の醸成につなげるとともに、山村留学を始めとした本校の取組を広く発信する。	①学校地域 WIN-WIN プロジェクトを活用(総務部・教科等) ②新規フリーットや学校だより、メディア、地域コラボ Facebook 等を活用(山留委・教務部等) ③地域と連携した総探の実施(総探委・学年等)	①「地域との協働活動が成長につながっている」の生徒回答8割 ②配布件数、取材件数、更新件数 ③生徒満足度8割			【課題】 . 【改善策】 .		